

令和二年度 日高看護専門学校 入学試験問題

〔一般〕

〔国語総合〕

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰めで受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
国語の問題は全部で三十八問あります。解答用紙の問一から問三十八までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

□ 次の問いに答えなさい。解答番号は□(1)～□(5)。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違つものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(1)。

- ① おらが春 ② 宇治拾遺物語 ③ 雨月物語 ④ 国性爺合戦

問二 次の書き出しで始まる作品の題名を選び、番号で答えなさい。解答番号は□(2)。

やまみち
山路を登りながら、こう考えた。

ち
知に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。

- ① 高瀬舟 ② 黒い雨 ③ 沈黙 ④ 草枕

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(3)。

- ① 先生に、古典の基本を教えてくださいました。
② その件については、あなたの申すとおりです。
③ お茶が冷めないうちに召し上がってください。
④ あなたは、明日はご自宅にいらつしやいますか。

問四 「意味深長」と同じ漢字の構成で成り立っている四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(4)。

- ① 用意周到 ② 起承転結 ③ 半信半疑 ④ 老若男女

問五 次の傍線部の語句と同じ品詞が用いられているものを、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(5)。

□(5)。

真実を知っている人は誰一人としていない。

- ① 私の妹はまだおさない。
② 忘れ物は、一つもない。
③ 暗くて前方が見えない。
④ 今日は、観客が少ない。

□ 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。 解答番号は □(6) □(22)

研究に限らず、大事業の成功に必要な三要素として、日本では昔から「運・鈍・根」ということが言われている。科学者の伝記を読むと、その人なりの「運・鈍・根」を味わうことができる。

「運」とは、幸運(チャンス)のことであり、最後の神頼みでもある。「^aジンジを尽くして天命を待つ」と言われるように、あらゆる知恵を動員することで、逆に人の力の及ばない運の部分も見えてくるようになる。ジンジを尽くさずにポーツとしているだけでは、チャンスを見送るのが関の山。運が運であると分かることも実力のうちなのだ。

次の「鈍」の方は、切れ味が悪くてどこか鈍いということである。最後の「根」は、もちろん根気のことだ。途中で投げ出さず、ねばり強く自分のナットク^bがいくまで一つのことを続けていくことも、研究者にとって大切な才能である。論文を完成させるまでの数々の自分の苦勞を思い出してみると、「最後まであきらめない」という一言に尽きる。山の頂上をめざす登山や、ゴールをめざすマラソンと同じことである。

¹ それでは、なぜ「鈍」であることが成功につながるのだろうか？ 分子生物学のキノ^cを築いたM・デルブリュック(一九〇六〜八一年)は、「限定的いい加減さの原理 (the principle of limited sloppiness)」が発見には必要だと述べている。

もしあなたがあまりにいい加減ならば、決して再現性のある結果を得ることはなく、そして決して結論を下すことはできません。しかし、もしあなたがちよつとだけいい加減ならば、何かあなたを驚かせるものに出合った時には……それははっきりさせなさい。

A、予想外のことがちよつとだけ起こるような、適度な「いい加減さ」が大切なのである。このように少しだけ鈍く抜けていることが成功につながる理由をいくつか考えてみよう。

第一に、「先があまり見えない方が良い」ということである。頭が良くて先の予想がつきすぎると、結果のつまらなさや苦勞の山の方にばかり意識が向いてしまつて、なかなか第一歩を踏み出しにくくなるからである。

第二に、「頑固一徹」ということである。「器用貧乏」や「多芸は無芸」とも言われるように、多方面で才能豊かな人より、研究にしか能のない人の方が、頑固に一つの道に徹してタイセイ^dしやすいということだ。誰でも使える時間は限られている。才能が命じるままに小説を書いたりスポーツに熱中したり、いろいろなことに手を出してしまうと、一芸秀でる間もなく時間が経つてしまう。私の恩師の宮下保司先生(脳科学)は、「頑固に実験室にこもる流儀」を貫いており、私も常にこの流儀を意識している。

第三に、「まわりに流されない」ということである。となりの芝生はいつも青く見えるもので、となりの研究室は楽しそうに見え、いつも他人の仕事の方がうまくいっているように見えがちである。それから、科学の世界にも流

行廢りがある。「自分は自分、人は人」とわり切って他人の仕事は気にかけず、流行を追うことにも鈍感になった方が、じっくりと自分の仕事に打ち込んで、自分のアイデアを心ゆくまで育てていけるようになる。

第四に、「牛歩や道草をいとわない」ということである。研究の中では、地味で泥臭い単純作業が延々と続くことがある。研究は決して効率がすべてではない。研究に試行錯誤や無駄はつきものだ。研究が順調に進まない、せっかくなら始めた研究を途中で投げ出してしまいがちである。成果を得ることを第一として、スピードと効率だけを追い求めている、傍らにあつて、大発見の芽になるような糸口を見落としてしまうかもしれないのだ。寺由寅彦は、晩年に次のように書いている。

所謂頭のいい人は、言わば脚の早い旅人のようなものである。人より先きに人の未だ行かない処へ行き着くことも出来る代りに、途中の道傍或は一吋した脇道にあるカンジンなものを見落す恐れがある。頭の悪い人脚の悪い人がずっと後からおくられて来て訳もなく其の大事な宝物を拾って行く場合がある。(中略)

頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい。凡ての行為には危険が伴うからである。怪我を恐れる人は大工にはなれない。失敗を怖がる人は科学者にはなれない。(中略)

頭がよくて、そうして、自分を頭がいいと思いいリコウだと思ふ人は先生にはなれても科学者にはなれない。人間の頭の力の限界を自覚して大自然の前に愚な赤裸の自分を投出し、そうして唯々大自然の直接の教にのみ傾聴するカクゴがあつて、初めて科学者にはなれるのである。併しそれだけでは科学者にはなれない事も勿論である。矢張り観察と分析と推理の正確周到を必要とするのは云う迄もないことである。

つまり、頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならないのである。

あえて「鈍」に徹して失敗を恐れないことが、科学者には必要なのだ。科学とは、「未知への挑戦」という最大の冒険なのだから。

一般論としての「運・鈍・根」に対して、同様に韻を踏みながら、研究者に必要な「勘」を加えてみたい。

「勘」とは、科学的思考のセンスであり、エレガントな解決法を見つけ出す嗅覚とも言ふべき直感や「ひらめき」である。経験に裏打ちされた、いわば「刑事の勘」によって難問を解決することは、研究の最大の醍醐味でもある。この勘は実際に研究を体験しながら現場で会得するしかないし、現場にいなければ勘がすぐに鈍ってしまう。もちろん、刑事の勘に加えて、張り込みのねばり強さと尾行の集中力も必要である。

B、「鈍」が説明のカテイを意識的かつ論理的にたどって分かることにつながる一方、「勘」は直感的な分かり方に対応する。仕事の九九パーセントが汗だったとしても、残り一パーセントの直感が必要なのだ。「名人の勘」が、端から見ていると神がかりのように感じられるゆえんである。このような意味で、「勘」は未知の暗闇を照らすサーチライトである。そしてこの「勘」こそが研究者の究極の能力でもある。このような研究のセンスについては第4章でさらに考えてみる。

私の恩師である堀田凱樹先生(遺伝学)の言葉を紹介しよう。

科学者は論理的でなければならないが、論理の積み上げだけでは十分でない。着実な準備の上に論理を越えた信念と実行力が必要で、そこにこそ幸運の女神が微笑む。(中略) 秀才であることは、成功するために必要でも十分でもない。

科学における模倣とは、基本的に論理の積み上げで予測できる範囲にある。科学的な創造とは、これに対して「論理を越える」ことで、この予測をくつがえすような発見にたどりつくことである。日本の技芸で、伝統を身につけた後に独自の道を極めることを指して、「守破離^{しゅぱり}」という言葉があるが、模倣によってこれまでの研究を守り、それを破り、そして創造の力でそれから離れることができれば、「論理を超えた」ことになる。

しかし、研究者はいつも名案が次々と湧いて来て、軽やかに論理を越えられるとは限らない。むしろ悶々として苦しんだり、確信に至らずに悩む時間の方がアツトウⁱ的に長いはずである。革命的な理論を創り上げたアインシュタインは、晩年に次のように述べている。(M・ソロヴィン宛の一九四九年三月二十八日付けの手紙より)。

あなたは、私がライフワークを振り返り、静かに満足していると想像するかもしれませんが。しかし、身近には全く違って見えるのです。確固たるものであろうと自分で確信するような考えは一つもなく、そもそも正しい方向に進んでいるのかさえ私には定かではないのです。

これは冒頭で引用したニュートンの言葉に近い述懐である。アインシュタインもまた科学のさらなる進歩^jのヨチを見すえていたに違いない。論理を越えた創造の産みの苦しみがそこにある。科学は完成のない芸術である。

(酒井邦嘉「科学者という仕事」)

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|------------------------------------|---|--|---|---|
| a | ジ ^ン ジ ^ン [6] | ① | ジ ^ン ソ ^ク に対応する。 | ② | ジ ^ン メ ^イ 救助に向かう。 |
| b | ナ ^ツ ト ^ク [7] | ③ | ジ ^ン ゾ ^ウ を手術する。 | ④ | 国民のためにジ ^ン リ ^ョ クする政治家。 |
| c | キ ^ン [8] | ① | 空手の技をエ ^ト クする。 | ② | 私だけト ^ク ベ ^ツ に教わった。 |
| d | タイ ^{セイ} [9] | ③ | カ ^ン ト ^ク に ^シ かられた。 | ④ | ト ^ク メ ^イ の手紙が来た。 |
| e | カ ^ン ジ ^ン [10] | ① | コ ^{ダイ} 寺院のソ ^セ キ。 | ② | デ ^モ をソ ^シ する警官。 |
| | | ③ | ソ ^マ ツな食事。 | ④ | 秘密のソ ^シ キで活動する。 |
| | | ① | セイ ^カ クの良い子ども。 | ② | セイ ^ジ ツなお医者さん。 |
| | | ③ | 入場をセイ ^ゲ ンする。 | ④ | ロケ ^ツ ト発射にセイ ^コ ウする。 |
| | | ① | カ ^ン キ ^ユ ウをつけた投球。 | ② | 客をカ ^ン タイする。 |
| | | ③ | 北方領土のヘ ^ン カ ^ン 。 | ④ | そのことがカ ^ン ヨウだ。 |

- f リ|コウ [11] ① リ|ユウなき反抗。 ② 宅配便をリ|ヨウする。
- ③ 飛行機がリ|リクする。 ④ ノウリに焼きついている風景。
- g カク|ゴ [12] ① 母のカイ|ゴをする。 ② ゴ|ジの多い文章。
- ③ 孫|ゴクウは玄奘三蔵の弟子だ。 ④ 授業中のシ|ゴは慎め。
- h カテ|イ [13] ① 彼の實力のテ|イドは未知数だ。 ② テッ|テイ的に練習する。
- ③ テ|イアンが出される。 ④ テ|イシヤ時間が短い電車。
- i アット|ウ [14] ① それはト|ウゼンの結果だ。 ② 石につまづきテント|トウする。
- ③ ト|ウブンのとりすぎに注意。 ④ 日本をト|ウイツした秀吉。
- j ヨ|チ [15] ① 明日はヨ|テイが入っている。 ② 銀行にヨ|キンする。
- ③ 彼の行為はわが校のメイ|ヨだ。 ④ ヨ|シンの続く被災地。

問二 空欄A・Bにあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は [16]・[17]。

- A [16] ① だから ② つまり ③ しかし ④ あるいは
- B [17] ① すると ② なぜなら ③ また ④ ただし

問三 二重傍線部Ⅰ「泥臭い」・Ⅱ「糸口」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は [18]・[19]。

- Ⅰ [18] ① スマートで洗練された ② やぼったい
- ③ 人の興味をひかない ④ 器具を使わない
- Ⅱ [19] ① 手がかり ② 重大な事実
- ③ 可能性 ④ 進むべき道

問四 傍線部Ⅰ「それでは、なぜ『鈍』であることが成功につながるのだろうか」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は [20]。

- ① 鈍感だということは、他人のアドバイスがどんなに大切なことも分からず、自分の信念にしたがって研
究に邁進するため、今までにない結果をもたらしやすいから。
- ② 少しだけ抜けている方が、先があまり見えないことから前に踏み出しやすく、周りを気にしないので、頑
固に自分の仕事に打ち込み、大発見をする可能性があるから。
- ③ 「鈍」であるというこはいい加減だということであり、そのいい加減さがあることで逆に科学者に必要
な新たな視点で物事をとらえることができるようになるから。
- ④ 少し鈍い人は、多くの失敗を経験しているために、人の苦しみやこのようにすれば失敗するということが

分かっているので、頭のよい人よりもよい先生になれるから。

問五

傍線部2「論理を越えた」とあるが、このことの説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(21)。

- ① 大発見をするためにそれまでの科学者のような論理的だが退屈な資料に頼らずに、周りに流されずに独自の研究に励み、自分の画期的なアイデアを育てること。
- ② 科学の世界において先の読めないことは、けっして客観的にとらえようとすることなく適度にいい加減な姿勢を保つことで科学には邪魔である論理を否定すること。
- ③ 現代の科学者として、物事を論理的思考だけでとらえるのではなく、むしろ自分の生きてきた経験を基にした直感を働かせることで、論理からはなれるということ。
- ④ 「守破離」という言葉のように、模倣によって論理の積み上げであるこれまでの研究を守るとともに、そこからそれを破り、そして創造の力で模倣から離れること。

問六

この文章の表現の特徴として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(22)。

- ① 科学は完成のない芸術であるということを様々な人の言葉を引用し、分かりやすく説明している。
- ② 科学者に必要な運・鈍・根について漢語を多用することで堅苦しい表現を避けて、説明している。
- ③ 研究者に必要な勘の大切さを、会話文やひらがなを多用することで親しみやすく説明している。
- ④ 頭のいい人と悪い人との違いを、比喻や倒置法などの表現技法を使って、効果的に説明している。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は(23)〜(38)

人が住む家というのは日常生活に密着している、というよりも日常そのものですから、そこに住み、暮らしている人にとってはすべてが当たり前すぎて、自分が住んでいる家屋が備えている意味や表出しているものを感じることはありません。A、家屋は日常そのものであるからこそ、その家屋をつくり出し、そこで生活を営む人、民族の精神性や文化性をギョウシユクして表現している、といえます。そういう視点で日本の家屋を見ていきましょう。

まず、日本の家屋は木造である、ということです。最近では団地やマンション、それに軽量鉄骨構造やパネル構造の家屋が増えてきていますが、それでもやはり、いまでも日本の家屋の基本は木造です。

いまでは壁を立てて間仕切りする家屋が増えていますが、以前はそうではありませんでした。壁は少なく、間仕切りするのは紙でできた襖ふすまや障子しょうじです。その襖や障子を明け放つと奥まで見通せるような具合で、大変開放的な構造になっています。こんなふうですから壊れやすい。火をつければ、たちまち燃えてしまいます。

一方、欧米の家屋の基本は石造りです。堅牢です。容易なことでは壊れません。石を積み上げる構造ですから、当然外部とは遮断しやだんされ、密閉性の高いものになっています。

中国の家屋も木造のものもありますが、厚く土を塗り込めた壁を立てて堅牢性を確保しています。地域によっては煉瓦造りが基本というところもあります。密閉性は高く、日本の家屋のように開けっ広げではありません。

壊れやすい日本家屋と堅牢な欧米の家屋。この二つを並べてどう感じるでしょうか。

明治初期に日本にやってきた欧米人には、日本の木造家屋が珍しいものにも、キイなものにも映ったようです。一種の驚きをもって日本家屋の印象を書いたものがいくつか残っています。壊れやすい家は堅牢を旨とする家屋に住んでいる欧米人には、仮の住まいとしか見えなかったようです。しかし、日本人は仮の住まいのような家で長く暮らしています。その理由はおしなべて質素さに求められています。また、他人が入ってくるのも容易に許してしまうような開けっ広げな構造は、欧米人にはただただ不可思議なものだったようです。

日本の家屋を見て質素さを感じ、開放性の高い構造を不思議がる。これはその人の感受性1の問題でしょう。そんなのです。壊れやすく開けっ広げな日本の家屋は、人間同士のX2がなくては成り立たない、と感じ取る見方もあるのです。

昔から日本全土は、諸外国に比べるとほぼ均一といってもいい文化に彩られ、コミュニケーションも容易です。そして、文化の単一性を土台に古くから培ってきた和の心があります。この信頼関係が柔らかなで開放的な家屋を生み出したことを知らなければなりません。

もちろん、長い歴史の中では戦火に見舞われ焼け落ちる、暴力で破壊されるということも度々起こりました。しかし、戦という一時期の特殊なジヨウキヨウの下で起こったことです。日常的にあるものではありません。日常にあるのは和の心に満ちた信頼関係だった、ということです。そして、信頼関係を前提にして日常生活を営める環境は、世界を見回してもあまりないことを知っておく必要があります。

欧米は異民族、異なる文化をもった人間が接触する機会が多い環境です。異なる文化を理解するのは難しいことで、

なかなか気心が知れません。警戒心を切らすことができません。実際、警戒を怠れば思いがけないことが日常的に起ります。そういう環境が容易に破壊できない堅牢性を備え、外部を壊断した密閉性の高い石造家屋を成立させたのです。

柔ら²か²で開けつ広げな日本の家屋は、特殊な日本文化の賜物^{たまもの}なのです。

さて、家の中に入りましょう。まず、玄関です。この玄関という言葉は仏教からきています。玄関の「玄」は薄暗いということ、その薄暗いところを通して Y に入っていくというわけです。

玄関に入ると一段高くなって敷居^{しきい}があります。そこで履物^{はきもの}を脱いで上がります。

この履物を脱ぐという行動は、私たち日本人はほとんど無意識にやっていることなのですが、非常に珍しいことです。世界で履物を脱いで家に入る例はほとんどありません。日本の家屋は畳敷きですから、泥のついた靴で入ったら汚れてとんでもないことになる、といった物理的なこともあるでしょう。しかし、それだけではありませぬ。

日本人にとって家の中は、整えられた清らかな場、聖なる場なのです。そこには神棚^{かみだな}や仏壇^{ぶつだん}が置かれています。家に入るといのは、清らかな場、聖なる場に入っていくことなのです。B、汚れている履物は脱いで入るわけです。

中に入っていくと、奥の間があります。日本の家屋には必ずといっていいほど、そこに住む家族が、格式が一つ上と意識する部屋があります。これは家屋の広さ狭さとは関係ありません。狭い家でも、家族が他とはちよつと違う感じをもっている部屋が必ずといっていいほどにあります。それが奥の間です。奥の間は改まった客を招き入れたり、一家の主が寝起きしたりするのに使われます。

この奥の間には一段高くなった場所があります。床^{とこ}の間^まです。この床の間という形式は、家屋の歴史を調べれば古い昔からあったものなかもしれませんが、室町時代に確立し、日本の家屋には必須¹のものになりました。ア

床の間には掛け軸がかけられます。それは墨を主体にした絵であったり書であったりという具合で、色彩の艶^{あで}やかなものはありません。季節によって取り替えられたりもします。そして、花が活^いけられます。生花です。それは様式的なフォルムにアレンジされて花器に活けられ、掛け軸の前に置かれます。イ

欧米の家屋でも部屋の壁に絵画をかけ、花を花瓶^{かびん}に盛ってテーブルや飾り棚の上に置きます。しかし、それと床の間のたたずまいと比べると、違いはレキゼン^dです。欧米の部屋にかけられる絵画は部屋を飾るものであって、インテリアの一つです。花瓶に盛られた花もあくまでも花であって、部屋を飾るものです。そして絵画も花も家族が暮らす日常的な部屋の中であって、それとは別の空間を構成することはありません。ウ

床の間は奥の間の一部でありながら、明らかにそれとは異なった Z 空間²です。墨一色を主体にした掛け軸は芸術性と精神性を漂わせます。フォルムを整えられアレンジされて花器に活けられた花は、花であって花ではなく、精神性を表現する芸術作品になっています。エ

つまり、床の間は極めて非日常的な空間なのです。日常的な空間である奥の間と非日常的な空間である床の間を並べて置く。そして、そこで生活を営む。これほど日本人の豊かな文化性を表出するものはありません。床の間を

宗教的な空間ととらえる説がありますが、床の間に人間を超越する雰囲気はありません。それよりも静謐な空間に漂うのは強い精神性です。日常的な空間とともに非日常的な空間を置き、その精神性を感受しながら生活する。日本人の文化の特性が如実に示されています。

しかし、合理性の観点に立てば、床の間は無駄な空間です。そのためでしょう、最近床の間をもたない家屋が増えています。これは非常にザンネンなことです。住空間の中に日常的な空間と非日常的な空間を併せもつ。この心の豊かさをぜひ見直してほしいと思います。

(田中英道「日本の文化 本当は何がすごいのか」)

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- a ギョウシユク [23] ① 恐ろしいギョウソウでにらむ。 ② 遠くの山をギョウシユする。
- b キイ [24] ① キネン切手を集める。 ② キリツ正しく生きる。
- c ジョウキョウ [25] ③ 貴金属店をカイギョウする。 ④ 弟子のアクギョウを正す師匠。
- d レキゼン [26] ① キネン切手を集める。 ② キリツ正しく生きる。
- e ザンネン [27] ③ 敵軍にキシユウをかける。 ④ キチョウな資料。
- ① 保存ジョウタイの良い古文書。 ② ジョウシキのない人。
- ③ ジョウモン式土器。 ④ ジョウブな体を保つ。
- ① 部分ではなくゼンタイを見る。 ② シゼンの驚異。
- ③ ゼンセンしたなしこチーム。 ④ ゼンレイのない大事件。
- ① ネンドをこねる。 ② 孔子と同じネンレイで学に志した。
- ③ 山登りには大切なネンリョウ。 ④ ザンネンを振り払う。

問二 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は

- (28) ・ (29)
- A [28] ① しかし ② すると ③ ところで ④ または
- B [29] ① なぜなら ② あるいは ③ さらに ④ だから

問三 二重傍線部「一必須」・「二如実」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。

解答番号は (30) ・ (31)。

- 一 [30] ① 退屈なこと ② いいかげんなこと
- ③ 必要なこと ④ 無駄なこと
- 二 [31] ① 事実のとおり ② なんとなく
- ③ 論理的に ④ あざやかに

問四

空欄X～Zにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(32)～(34)。

- X (32) ① 共同作業 ② 歴史認識 ③ 信頼関係
- Y (33) ① 夫婦の寝室 ② 修行の場 ③ 壮大な空間
- Z (34) ① 非日常的 ② 非科学的 ③ 非論理的

問五

この文章からは、次の一文が抜けている。ア～エのどこに戻すのが適切か。番号で答えなさい。解答番号は(35)。

そして、この組み合わせで構成された空間は静謐さを湛えます。

- ① ア
- ② イ
- ③ ウ
- ④ エ

問六

傍線部1「感受性の問題」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(36)。

- ① どんな人であっても自分の住んでいる国とか地域、または民族の伝統や慣習などによって育ち方は一定ではなく、一人一人の感じ方に、違いが出てくるのだということ。
- ② 日本の家屋の質素さや開放感のあるたすまいに不可思議さを感じるのは、日本とは違う堅牢で密閉性の高い家屋に住むことによって培われた感性によるものだけということ。
- ③ 他国の侵略を受けたり、革命などで多くの人が死んだ経験を持つ人は、気心の知れない人を疑いの目で見るために家屋を見る時にも偏った見方をしてしまうということ。
- ④ 日本は家屋に土足で入ることはないが、欧米人はふだんから土足で家に入る習慣があるので、日本の文化のすばらしさについては、感覚的に理解できないということ。

問七

傍線部2「柔らかで開けっ広げな日本の家屋」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(37)。

- ① 昔から日本人は色々な土地を行き来して交易し、特に物々交換することによって相手の優しい気持ちや人間性を理解しているので強固な建物を建てる必然性はなかったから。
- ② 四方が海に囲まれた日本では、人々の心も穏やかであり、昔からお互いに助け合って生きてきたので、わざわざ欧米のように戸締りを厳重にしたりすることはなかったから。
- ③ 日本では家を仮のすまいと捉え、質素を旨としたと同時に、文化の単一性を土台に古くから培ってきた日本人の持つ和の心によってお互いを疑うことなく暮らしてきたから。
- ④ 日本は湿度が高くレンガや石でつくられた外国のような密閉性の高い家屋を建てると、すぐにカビが生えて住むのが不快なので紙を使い開放感のある建物が必要だったから。

問八 本文に書かれている内容として適切でないものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **38**。

- ① 家屋は日常そのものであるからこそ、その家屋をつくりだし、そこで生活を営む、民族の文化性や精神性を表現している。
- ② 日本人が汚れている履物を脱いで家にかかるのは、家の中は神棚や仏壇からわかるように清らかで聖なる場だからである。
- ③ 床の間にある掛け軸は、以前は墨を主体にした絵であったり書であったりしたが、後に色彩の艶やかなものが主流になった。
- ④ 床の間をもたない家が増えたが住空間の中に日常的な空間と非日常的な空間を併せもつこの心の豊かさを見直してほしい。